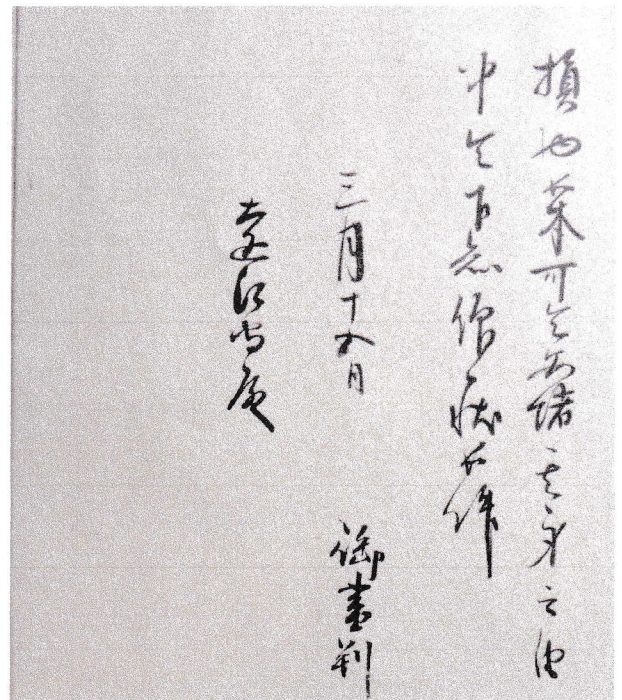
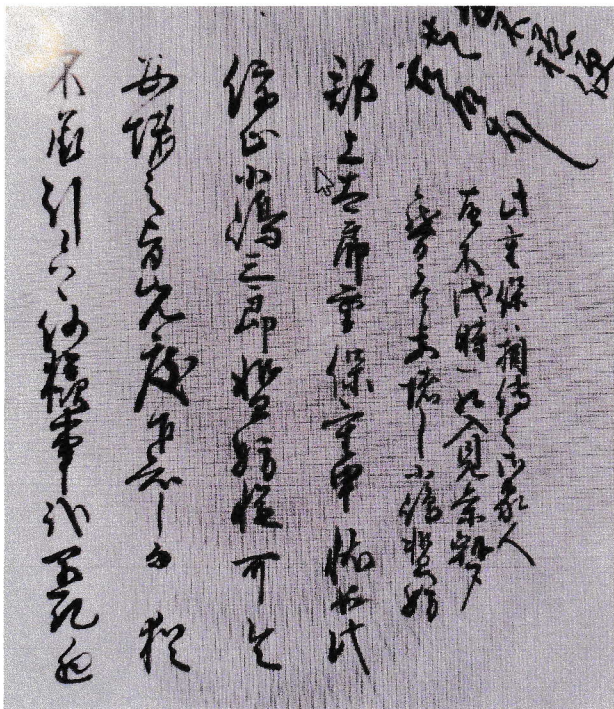


鷲見氏統治820年根拠に疑問点！

文化財の会員の中から、近年の文化財保護協会は何をしているのか。鷲見氏 820年のこともよく分からないし、会員を無視した運営をしていないか？という意見がよく聞きますので、会報でその内容をお知らせします。

高鷲文化財保護協会は、「鷲見氏・鷲見郷 820年祭」を今年中に開催します。しかし、鷲見氏が鷲見郷を統治してから 820年の根拠が明確ではないので、高鷲文化財保護協会では「長善寺文書」の中にある下記の文書を根拠としています。



長善寺文書

袖書き

此重保ハ相伝之御家人
之勞令候安堵し小嶋儘妨

故不代時一の入見朝夕
甚だ不穩便せし 左候故

郡上太郎重保、重ねて申すの状、此の如き、
小嶋三郎儘妨慥かに停止
之を安堵せしむべくのみ、先度下知了、而
猶不承引にて何様哉 早糺迫損也、
本の如く其身安堵せしむべくの由
仰之状下知せしむべく件如

三月十五日
遠江守殿

御書判

この記事の三月十五日を小嶋三郎の儘妨から建仁年間（1201~1203）と判断し、さらにその時の鎌倉幕府の執権が北条時政であることから遠江守は北条時政だと判断して鷲見重保が鷲見郷を安堵されて鷲見郷に居住していたから、今年で 820年と判断して鷲見氏統

治 820 年祭を文化財保護協会が企画しました。

しかし、ここには疑問点が多々あります。

①長善寺文書の表紙には「従足利将軍鷲見氏代々へ感状写」と書いてあり、上記の史料には年月日だけで和暦があるのに、この箇所だけが和暦が無く、建仁年間と解釈するのは無理があるのではないか。

②この記事のように重保が鷲見郷に居住していただろうか、芥見庄を安堵されているなら鷲見郷のような山深い山村ではなく、適度な小高い山と広大な農地が広がる芥見の長山に居住した方が良いと思われる。鷲見氏は芥見にいたのではないか。

③小嶋三郎が芥見庄を鑑妨されたとあるが、これは芥見長山郷のことで、鷲見郷ではないと思います。

①袖書きなのに資料的価値はありますか。

以上の疑問点の回答を会報でお願いします。

また、鷲見氏統治 820 年祭を、高鷲文化財保護協会主催で行わなければならないのか。この点も回答をお願いします。

鷲見郷から高鷲へ

平安時代の初期には郡上郡が、延喜格式の改訂により、武儀郡から独立した。丁度その頃、鮎走、切立、正ヶ洞、向鷲見、中切、穴洞、西洞、鷲見(わしみ)の八か村を号して鷲見郷というようになった

明治 8(1875)年になると、今まで八つの村で構成されていた鷲見郷は三つの村に合併し、鮎走村と切立村が合併して「鮎立村」(人口 1380 人)に、正ヶ洞村と中切村と穴洞村と向鷲見村が合併して「大鷲村」に、鷲見村と西洞村が合併して「鷲見村」となった。なお、すぐに鷲見村は後に元の鷲見村と西洞村に分かれた。

明治 30(1897)年になると、鮎立村、大鷲村、鷲見村、西洞村の四村が合併して一つの村となった。この時、村名をどうするかで、富田新田の富田にするなど色々な意見が出たが、鷲見郷の「鷲」と「鷲伝説」のある {鷲} の一文字を取り、郡上郡の中で一番土地が高いところ、長良川の最上流部にあるので「高」の字を付けて「高鷲村」と名付けられた。

平成 16(2004)年に郡上七ヶ町村が合併して、新しく「郡上市」が誕生し、高鷲村は無くなった。

文化財保護協会として今はなき鷲見郷つまり高鷲村を顕彰し地域起の材料としないか？を研究して欲しい。

会長はすべての文化財保護協会会議・研修旅行に顔を出すべきでは無いか？と言う意見がありました。

次号でこれらの質問に対して回答します。